

東日本大震災 学生派遣ボランティア 大船渡隊 第一班

2011.04.29～05.08

茅野大志 坂本啓二 坂本円花 佐藤佳美
干場先生夫妻

**Today is the first day of the rest of your
life.**

- **・期間**

- 4月29日(金)～5月8日(日)

- **・活動場所**

- 岩手県大船渡市

- **・活動内容**

- ・これから長期にわたって大船渡で活動をしていくための拠点づくり(in 遠野市)

- ・避難所の調査をまとめた

- 「マッピング」づくり

- ・「マッピング」づくりと平行して

- 住民の方々のニーズの発掘

- ・学生として「震災」の現状を見てくる

- **～2班の活動～**

- マッピング作業を引き継ぎ、完成させてくれました。



チャイルド・ファンド・ジャパンとは

・1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしているNPO団体である。

共同・協力

・酪農学園大学と共同・協力して東日本大震災への緊急支援を実施している

。

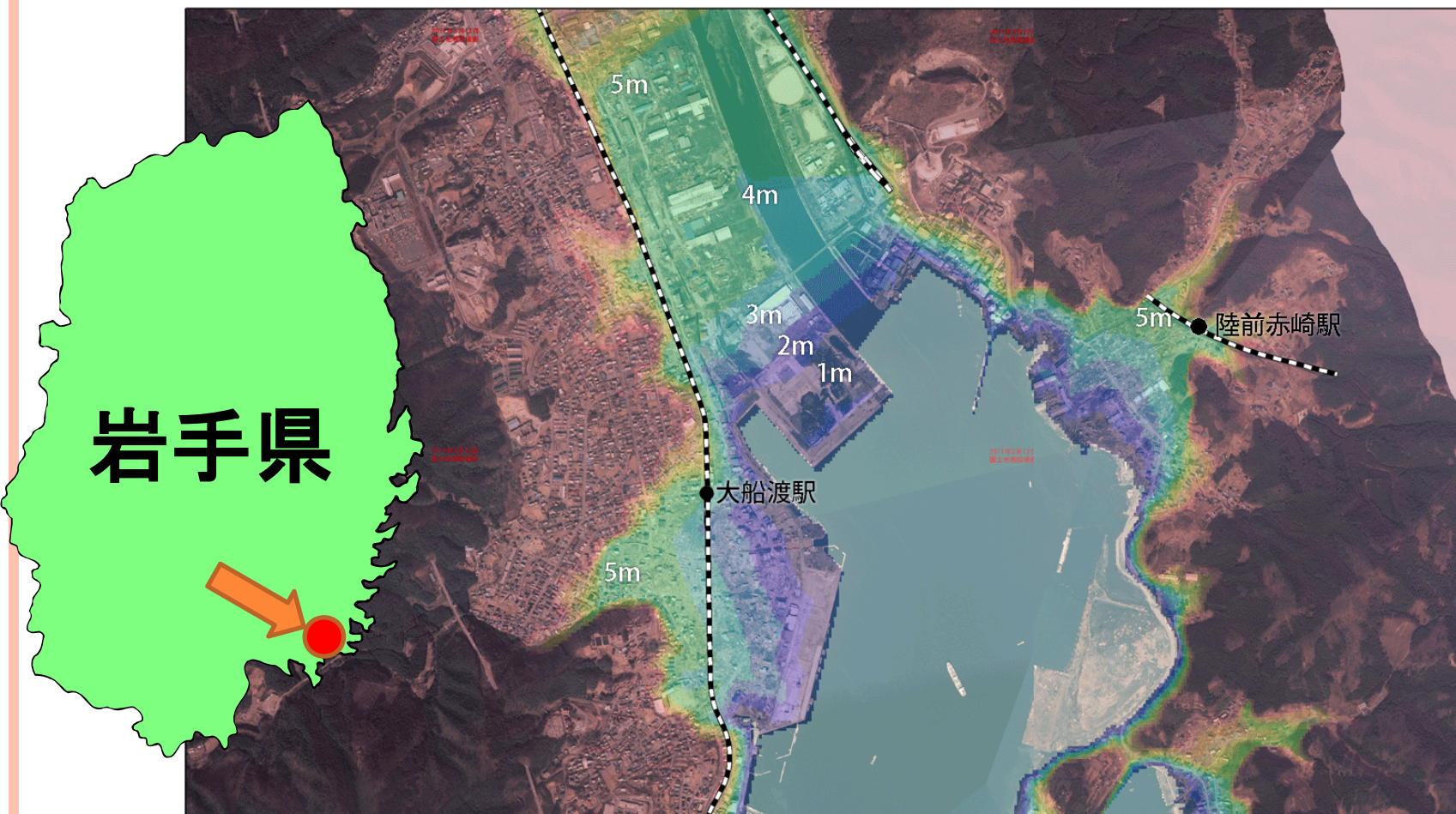


Rakuno Gakuen University

酪農学園大学

ChildFund
Japan

大船渡



地図: 国土地理院 基盤地図情報2500 大船渡市
空中写真: 国土地理院(2011年3月12日) ※空中写真の座標は変動前に修正
作成: 北海道大学大学院文学研究科 橋本雄一, 修士1年 川村 壮

0 100 200 400 m

・ <http://chiri.let.hokudai.ac.jp/~you/map.html> より引用

状況

- 災害から約2カ月が過ぎている。
- 避難所への物資供給は十分足りている。
- 未だ瓦礫などの片付けが済んでいない地域がある。
- 多くの人手が必要な場所も・・・
- 近々仮設住宅への入居が始まる予定。



ライフライン復旧について

- 多くの避難所は電気・ガスが通じている。
- 水道は依然として通っており、多くの避難所は給水車に頼っている。
- 固定電話は避難所によって差がある。



被災地の状況



運動場にも仮設住宅が



拠点での作業風景



避難所での聞き込み作業

09:00 ボランティアセンター

↓
避難所へ移動

↓
聞き込み・情報入力

↓
※ 繰り返し

↓
16:00 ボランティアセンター



聞き込みの質問事項

- ①食事
- ②住み心地(ex. お風呂)
- ③ライフラインの復旧状況
- ④子供の状況・人数
- ⑤仮設住宅の状況





←避難所の給水設備
✓避難所へ行く階段
（約80段）
↓仮設住宅



Point

- 早期の組織作り
- 地域のコミュニティ

問題点

- 情報伝達の不備
- 物資支援と
地域経済の共生

今後の課題

- 避難所への情報伝達
- 行政, NPO, ボランティアの連携
- 支援の退き際(復旧→復興)
- 仮設移動後のコミュニティ形成
- 個々のニーズへの対応



マッピング作業



マッピングに落とし込んでいく情報

1. 食事
2. 避難所の状態
3. ライフライン
4. 子供の数、状態
5. 仮設住宅
6. 避難所の雰囲気

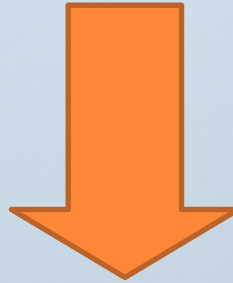


チーム『酪農大』として長期的な活動

- ・地域差のある、変化し続けるニーズに対応。
- ・大きな情報板として、『できることを繋げる』
- ・他組織とのつながりを強める。
- ・今後の展開を把握、それに見合った支援を

していく

マッピング



これからを見据える
これから生きていくための
ツール

今後の展開

マッピングの完成と

被災者の方々のニーズの

学生として何

が

できるのかを

考え

実行

していくことが

今後の課題

・目指すのはあくまで

・マッピング作業や



感想

入浴中

後ノ入湯泉

※写真は後ノ入公民館の自家製五右衛門風呂

ご清聴ありがとうございました



左から、デカ・よっぴー・モコ・

クラフ・かずさん ボランティアセンターにて。

April 30 – May 7, 2011